今後はレイトマジョリティへの訴求が焦点。課題/ニーズの変化を捉え、市場拡大を阻む障壁を打開するためには何をすべきか？

2023年版 中堅・中小企業におけるRPAおよびノーコード/ローコード開発ツールの活用実態レポート

本ドキュメントは「調査対象」「設問項目」および「試読版」を掲載した調査レポートご紹介資料です。

調査対象ユーザ企業属性:　「どんな規模や業種の企業が対象かを知りたい」⇒　1ページ
設問項目:　「どんな内容を尋ねた調査結果なのかを知りたい」⇒　2～13ページ
本レポートの試読版:　「調査レポートの内容を試し読みしてみたい」⇒　14～17ページ

[調査レポートで得られるメリット]

1. **年商/業種/従業員数/所在地といった様々な観点で市場動向を把握することができます。**
2. **収録されている集計データをカタログや販促資料などに引用/転載いただくことができます。**

調査対象ユーザ企業属性

本調査レポートでは以下のような属性に合致する1300件（有効回答件数）の中堅・中小企業を対象とした調査を行っている。

有効サンプル数:　1300社（有効回答件数）

A1.年商区分:　5億円未満（200社） / 5億円以上～10億円未満（200社） / 10億円以上～20億円未満（200社） / 20億円以上～ 50億円未満（200社） / 50億円以上～ 100億円未満（200社） / 100億円以上～ 300億円未満（200社） / 300億円以上～ 500億円未満（100社）

A2.職責区分:　情報システムの導入や運用/管理または製品/サービスの選定/決済の権限を有する職責

A3.従業員数区分:　10人未満 / 10人以上～20人未満 / 20人以上～50人未満 / 50人以上～100人未満 / 100人以上～300人未満 / 300人以上～500人未満 / 500人以上～1000人未満 / 1000人以上～3000人未満 / 3000人以上～5000人未満 / 5000人以上

A4.業種区分:　組立製造業 / 加工製造業 / 建設業 / 卸売業 / 小売業 / 流通業（運輸業） / IT関連サービス業 / 一般サービス業 / その他

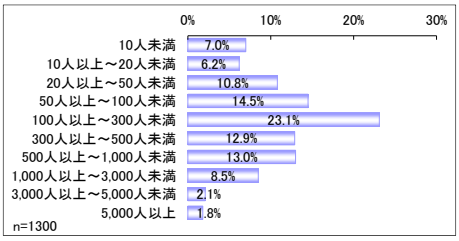
A5.所在地区分:　北海道地方 / 東北地方 / 関東地方 / 北陸地方 / 中部地方 / 近畿地方 / 中国地方 / 四国地方 / 九州・沖縄地方

調査実施時期:　2023年7月～8月

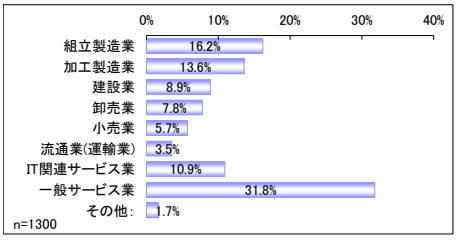
上記に加えて、**「A6.IT管理/運用の人員規模」**（IT管理/運用を担う人材は専任/兼任のいずれか？人数は1名/2～5名/6～9名/10名以上のどれに当てはまるか？）および**「A7.ビジネス拠点の状況」**（オフィス、営業所、工場などの数は1ヶ所/2～5ヶ所/6ヶ所以上のいずれか？ITインフラ管理は個別/統一管理のどちらか？）といった属性についても尋ねており、A1～A7を軸として以降に述べる全ての設問を集計したデータが含まれる。

以下の3つのグラフは1300社の有効サンプルの「従業員数」「業種」「所在地」分布を表したものである。『従業員数1000人以上の大企業が中心で、中小企業のサンプルはわずかしかない』などといったサンプル件数不足や『IT関連サービス業が大半を占めてしまっており、純粋な意味でのユーザ企業が少ない』といったサンプルの偏りがないことが確認できる。

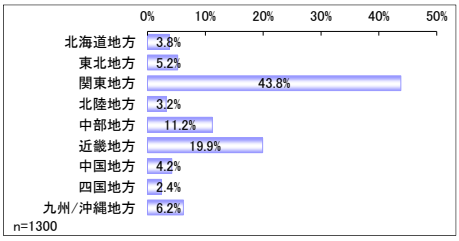
従業員数分布



業種分布



所在地分布



価格:　￥180,000円（税別）
発刊日:　2024年1月31日
お申込み方法:　弊社ホームページから、またはinform@norkresearch.co.jp宛にご連絡ください

本調査レポートの背景と用語の定義

業務の自動化やプログラミングの削減を目指した取り組みは以前も存在したが、近年のRPA（Robotic Process Automation）やノーコード/ローコード開発ツールは中堅・中小市場においても従来と比べて高い注目を集めている。これら2つのIT活用分野はイノベータによる初期事例を経て、現在はアーリアダプタやアーリマジョリティの需要も一巡しようとしている。IT企業としては今後のレイトマジョリティに向けた訴求を如何に進めるか？が重要なポイントだ。そこで本調査レポートでは新しいIT活用分野で生じがちな「活用の中断」を防止し、既存の業務パッケージなどとの競合や過去における失敗（EUCの弊害など）を回避するためには何をすべきか？に焦点を当てている。

本調査レポートにおけるRPA（Robotic Process Automation）ツールとは、ヒトによる手作業を自動化するアプリケーションを指す。また、ノーコード/ローコード開発ツールとは、プログラミングが全く不要（ノーコード）、もしくは簡易なプログラミング（ローコード）によって業務システムを作成できる開発環境を指す。字数が長くなることを避けるため、説明文、グラフ、数表では「ノーコード/ローコード開発（No-Code Low-Code Development）」をNLDと略記し、ノーコード/ローコード開発ツールを「NLDツール」と記載する場合がある。また、RPAツールとNLDツールを合わせて、適宜「RPA/NLDツール」と記載する。

分析サマリの章構成

本調査レポートは調査結果の要点と提言を記載した「分析サマリ」（PDF形式）と多数の集計データ（Microsoft Excel形式）で構成されている。集計データには3ページ以降に列挙した各設問を様々な観点で集計した結果が収録されている。それらの詳細は10～13ページの「本調査レポートの集計データ」で述べる。一方、分析サマリは以下の7つの章から構成されている。

第1章：RPA/NLDツールの認知と導入状況

ユーザ企業はどのような場面をRPA/NLD活用に該当すると考えているのか？（RPA/NLDツールと従来ツールとの混同はないか？）を確認した上で、RPA/NLDツールの導入状況を「導入済みで今後も拡大する」や「導入したが廃止した」などの詳細なパターンに分けて集計/分析。

第2章：RPA/NLDツール活用における課題

RPA/NLDツールを活用する際にユーザ企業が直面する課題をRPAツールに固有の項目、NLDツールに固有の項目、両者に共通する項目に整理し、計23項目に渡って集計/分析。

第3章：RPA/NLDツール活用における取り組みや方針

RPA/NLDツールを活用する際にユーザ企業が取り組んでいる事柄や実践している方針について、RPAツールに固有の項目、NLDツールに固有の項目、両者に共通する項目に整理し、計24項目に渡って集計/分析。

第4章：RPA/NLDツールを適用する場面や用途

RPAツールとNLDツールのそれぞれについて、ユーザ企業が各ツールを適用する場面や用途を具体的に列挙し、今後はどのような場面や用途が増えるか？などを集計/分析。（RPAツールに関する用途/場面の選択肢は計14項目、NLDツールに関する用途/場面の選択肢は計10項目）

第5章：RPAツールの社数シェア

計36項目に渡る具体的な製品/サービスを列挙し、RPAツールの導入済み/導入予定の社数シェアを集計/分析。

第6章：NLDツールの社数シェア

計40項目に渡る具体的な製品/サービスを列挙し、NLDツールの導入済み/導入予定の社数シェアを集計/分析。

第7章：RPA/NLDツールの導入費用と導入元

RPA/NLDツールの導入費用（ハードウェアやOSは除外）および導入元（プライムの販社/SIerか、それ以外の販社/SIerか、ベンダからの直販か？）について尋ねた結果を集計/分析。

本調査レポートの設問項目（1/7）

本調査レポートの設問は大きく分けてF1～F8の計8項目で構成されている。さらに、幾つかの設問はF2-1、F2-2のように枝番に分かれており、「F*-1」はRPAツールに限定した選択肢、「F*-2」はNLDツールに限定した選択肢の設問となっている。F8-1とF8-2を除く設問はいずれも与えられた選択肢から回答を選ぶ「選択肢設問」となっており、設問文の末尾に（複数回答可）と記載された設問は複数の選択肢を選ぶことが可能な設問、そうでない設問は1つの選択肢のみを選ぶ単一回答設問である。F8-1とF8-2はRPA/NLDツールの導入費用を数値で記入する「数値記入設問」となっている。

F1.RPA/NLDツールの活用に該当するケース（複数回答可）

中堅・中小企業がRPA/NLDツールをどのように理解しているか（他の既存ツールと混同していないか？）を把握するために、RPA/NLDツールの活用に該当すると考えられるケースはどれか？を尋ねた設問である。例えば、もしも「Excelのマクロ記録機能を用いて処理を自動化する」の回答割合が高かったとすると、RPAツールとMicrosoft Excelのマクロ機能を混同しているユーザ企業が多いということになる。選択肢は以下の通り。

<<RPAツールの活用>>

・PCの操作内容を記録して、それを再現する形で自動化する
・PCの操作手順を定義して、それに沿って自動的に実行する
・既存の業務システムをカスタマイズして処理を自動化する
・ヒトによる手作業を代替するシステムを新規に開発する
・Excelのマクロ記録機能を用いて処理を自動化する

<<NLDツールの活用>>

・ツール上で画面や処理を定義して、ソースコードを出力する
・ツール上で画面や処理を定義して、クラウド上などで動かす
・専用ツールでECサイトやホームページを手軽に作成する
・専用ツールでモバイル向けサービスを素早く構築する
・Excelの関数やマクロを用いて独自システムを構築する

<<その他>>

・その他：
・判断できない（排他）

設問F1を尋ねた後、以降の設問に進む前にあらためて本調査レポートにおけるRPA/NLDツールの定義を以下のような内容で記載している。

RPAツールとは：

・PCの操作内容を記録して、それを再現する形で自動化する
・PCの操作手順を定義して、それに沿って自動的に実行する
といった方法でヒトによる手作業を自動化するアプリケーションを指す。既存の業務システムをカスタマイズしたり、新規に業務システムを開発して実現された自動化はRPAツールの活用には含まない。

NLDツール（ノーコード/ローコード開発ツール）とは：

ツール上で画面や処理を定義して、ソースコードを出力したり、 クラウドなどで動作する業務システムを生成できる開発基盤を指す。
ただし、ECサイトやホームページなどの特定用途に限定したものや、モバイルなどの特定のシステム形態に特化したものは除外する。

F2-1.RPAツールの活用状況
F2-2.NLDツールの活用状況

RPAツールとNLDツールのそれぞれの活用状況を以下の選択肢で尋ねた設問である。

・導入済み＆拡大	既に導入済みであり、今後は活用範囲を更に拡大する場合（※1）
・導入済み＆維持	既に導入済みであり、今後も現在の活用範囲を維持する場合（※2）
・導入済み＆縮小	既に導入済みであり、今後は現在の活用範囲を縮小する場合（※3）
・導入あり＆廃止	過去に導入していたが、現在は活用していない場合（※4）
・導入予定	現在は導入していないが、今後導入する予定の場合（※5）
・導入無＆予定無	現在は導入しておらず、導入する予定もない場合
・判断不可	現在は導入しておらず、今後は判断できない場合

RPA/NLDツールの導入有無によって課題やニーズがどう異なるか？把握するために、本設問は他の設問を集計する際の軸として用いられる。その際には※1～※3を「導入済み」に集約し、※5の「導入予定」および※4の「導入あり＆廃止」と共に3つの選択肢にまとめた本設問の派生設問「F2-1（要約）」および「F2-2（要約）」が用いられることもある。

本調査レポートの設問項目（2/7）

F3.RPA/NLDツール活用における課題（複数回答可）

RPA/NLDツールを活用する際にユーザ企業が直面する課題は何か？を尋ねた設問である。導入済みや過去に導入経験がある場合は実際に直面した課題、導入予定の場合は想定される課題を選ぶ。導入予定がない、または導入判断がつかない場合にはRPA/NLDツールを活用したと仮定した際に想定される課題を選ぶ。選択肢は以下の通り。

<<**RPAツールに固有の項目**>>
・自動化できる業務内容がごく一部に限られる
・自動化できる業務内容がどれか判断できない
・ヒトによる手作業が残るため、導入効果が低い
・自動処理中にヒトの判断を挟むことができない
<<**NLDツールに固有の項目**>>
・ツール固有のノウハウやスキルが必要になる
・コーディングが必要となる場面が意外と多い
・実現できる画面仕様や処理内容が限られる
・業務上の仕様やルールが曖昧になりやすい
<<**共通：ツール自体に関連する課題**>>
・従来通りに業務システムを構築した方が確実
・他システムとの連携が困難または煩雑である
・既存の開発ツールや運用/保守と合致しない
・処理性能やセキュリティ対策を強化できない
・ツール自体が将来的になくなる恐れがある
<<**共通：ツールの導入/運用に関連する課題**>>
・ツール活用にはIT企業の支援が不可欠である
・ツールの機能が豊富であるため使いこなせない
・ツールの機能が不足していて要件を満たせない
・部門単位での勝手なツール活用が乱立する
・一度ツールを導入すると、やめることが難しい
<<**共通：費用やシステム形態に関連する課題**>>
・有償コンサルティングを受けないと導入できない
・運用形態（クラウド/オンプレミス）が限定される
・ RPAツールとNLDツールの使い分けが難しい
・ツールのライセンス費用が高価である
・ツールの導入/運用に手間がかかる
<<**共通：その他**>>
・その他：

F4.RPA/NLDツール活用における取り組みや方針（複数回答可）

RPA/NLDツールを活用する際の取り組み（テンプレートを利用するなど）や方針（アジャイル開発を採用するなど）について尋ねた設問である。導入済みや過去に導入経験がある場合は実施した取り組みや実践した方針、導入予定の場合は想定している取り組みや方針を選ぶ。また、導入予定がない、または導入判断がつかない場合にはRPA/NLDツールを活用したと仮定した際に想定される取り組みや方針を選ぶ。選択肢は以下の通り。

<<**RPAツールに固有の項目**>>
・業務の自動化を例示したテンプレートを利用する
・複数業務が連携した自動化を提案してもらう
・PC操作を元に自動化すべき業務を診断する
・自動化の適用範囲をペーパレス化に絞る
<<**NLDツールに固有の項目**>>
・汎用のNLDツールで様々な用途をカバーする
・用途別の専用開発ツールを適材適所で選ぶ
・要件に合ったSaaSがあればそれを優先する
・内製による開発範囲はExcel代替に絞る
<<**共通：ツールの導入/運用に関連する取り組みや方針**>>
・まずは既存システム自体の改善を検討する
・既存システムをRPA/NLDツールで代替する
・ IT企業に頼らず、自力でツールを活用する
・ IT企業の支援を受けてツールを活用する
・反復的なアジャイル開発手法を採用する
・RPA/NLDツールはシステム連携に絞る
<<**共通：ツールの活用目的に関連する取り組みや方針**>>
・デジタル化する業務を拡大するために活用する
・システム開発を短期化する手段として活用する
・システム改変を容易にする手段として活用する
・性能やセキュリティの確保手段として活用する
・IT担当/部門の負担軽減のために活用する
・IT支出を削減する手段として活用する
<<**共通：費用やシステム形態に関連する取り組みや方針**>>
・有償でも導入支援コンサルティングを利用する
・機能が限られても、無償/安価なツールを選ぶ
・処理量やデータ量に基づく従量性課金を選ぶ
・RPA/NLDツールの成果物はクラウドで運用する
<<**共通：その他**>>
・その他：

本調査レポートの設問項目（3/7）

F5-1.RPAツールを適用する場面や用途（複数回答可）

業務におけるどのような場面や用途に対してRPAツールを適用するか？を尋ねた設問である。導入済みや過去に導入経験がある場合は実際に適用した場面や用途、導入予定の場合は想定している場面や用途を選ぶ。導入予定がない、もしくは導入判断がつかない場合にはRPAツールを活用したと仮定した際に想定される場面や用途を選ぶ。選択肢は以下の通り。

<<**データの転記や照合に関する項目**>>

- ・書式が定まった紙面の転記/照合　例）マークシート方式で記入する申込書をシステムに転記する作業を自動化する
- ・非定型である紙面の転記/照合　例）名刺のように書式が一定でない紙面のデータを転記する作業を自動化する
- ・手書きを含む紙面の転記/照合　例）手書きの自由記述を含むアンケートをシステムに転記する作業を自動化する
- ・Webサイトの転記/照合　例）競合他社の価格情報を検索して一覧に整理する作業を自動化する
- ・メール文面の転記/照合　例）メールで送られた注文を販売管理システムに入力する作業を自動化する

<<**データの配置や配信に関する項目**>>

- ・ファイルを定期的に配置する　例）毎日所定の時刻に売上速報をアップロードする作業を自動化する
- ・メールを定期的に配信する　例）定例会議の前に事前資料をメールで送信する作業を自動化する

<<**データの作成や加工に関する項目**>>

- ・資料やレポートの作成　例）会計システムのデータを経営層向けにグラフ化する作業を自動化する
- ・データの集約と修正　例）店舗や拠点の売上データを統一された書式にまとめる作業を自動化する
- ・データや書式の変換　例）システムAのデータをシステムBに読み込むための変換作業を自動化する

<<**高度な判断を伴う処理に関する項目**>>

- ・Q&Aサイトの自動応答　例）過去の履歴などを元にQ&Aサイトに書かれた質問に対して自動的に応答する
- ・メールの自動返信　例）過去の履歴などを元にメールで送られた問い合わせに対して自動的に応答する
- ・ワークフローの分岐　例）過去の履歴などを元にワークフローにおける条件分岐を自動的に判断する
- ・データ分析と予測　例）顧客情報や履歴データを元に優良顧客や要注意顧客（支払遅延など）を推定する

<<**その他**>>

- ・その他：

F5-2.NLDツールを適用する場面や用途（複数回答可）

業務におけるどのような場面や用途に対してNLDツールを適用するか？を尋ねた設問である。導入済みや過去に導入経験がある場合は実際に適用した場面や用途、導入予定の場合は想定している場面や用途を選ぶ。導入予定がない、もしくは導入判断がつかない場合にはNLDツールを活用したと仮定した際に想定される場面や用途を選ぶ。選択肢は以下の通り。

- ・新規の業務システム開発　例）OutSystemsで自社向けの独自CRMを開発する
- ・既存システムの機能追加　例）既存システムにLightning Platformでスマートフォン向け画面を追加する
- ・既存システムの再構築　例）Lotus Notes/Dominoの独自データベースをHCL Domino Leapで作り直す
- ・レガシーマイグレーション　例）COBOLで構築されたシステムと同じ仕様のものをGeneXusで再構築する
- ・クラウドサービス間の連携　例）Power AutomateでDropboxとSlackを連携させる
- ・オンプレミス/クラウド連携　例）Boomiで社内システムとクラウドを連携する
- ・オンプレミス同士の連携　例）ASTERIA Warpで異なるデータベースを連携する
- ・簡易な業務ツールの作成　例）部署内の工程管理ツールをFile Makerで作成する
- ・Excel代替のシステム開発　例）Excelのマクロで作成したシステムをkintoneに移行する
- ・ヒトによる手作業の自動化　例）AppSuiteで週次の売上計算処理を自動化する
- ・その他：

本調査レポートの設問項目（4/7）

F6-1A.導入済み/導入予定のRPAツール（複数回答可）

本設問は設問F2-1「RPAツールの活用状況」において、「導入済み＆拡大」（※1）、「導入済み＆維持」（※2）、「導入済み＆縮小」（※3）、「導入あり＆廃止」（※4）、「導入予定」（※5）のいずれかを選んだ場合のみ回答対象となる。※1～※4を選んだ場合は実際に導入したRPAツール、※5の場合は導入を予定しているRPAツールを全て選ぶ。選択肢は以下の通り。選択肢に掲載される製品/サービスは過去の調査結果や最新の市場状況を踏まえて選定される。自由回答で多く挙げられたものは選択肢として新たに取り上げ、逆に一定期間以上シェア数値がないものは割愛するという方針で年毎に調整を行っている。

<<国内ベンダ>>

・WinActor	NTTアドバンステクノロジ
・BizRobo!	RPAテクノロジーズ
・Auto名人シリーズ	ユーザックシステム
・SynchRoid	ソフトバンク、RPAホールディングス
・OCEVISTAS	大崎コンピュータエンヂニアリング、RPAテクノロジーズ
・パトロールロボコン/ロボシュタイン	コムスクエア
・ipaSロボ	デリバリーコンサルティング
・NEC Software Robot Solution（BizRobo!は除く）	NEC
・GENEST/EntreQue/Axelute	富士通
・NaU DSP	なうデータ研究所
・Robo-Pat	FCEプロセス&テクノロジー
・Owlgarden RPA	エクス
・batton	batton
・AUTORO（Robotic Crowd）	オートロ（チュートリアル）
・BizteX cobit	BizteX
・アシロボ	ディヴォートソリューション/ドヴァ
・RoboTANGO	スターティアレイズ
・JobAuto	シジャム・ビーティービー
・Ez Robot	RPAソリューションズ
・クラウドBOT	C-RISE
・EzAvater	テリロジーサービスウェア
・コボットPlatform	ディップ
・ziggxa flow	ジグザ
・マクロマン	コクー
・ロボオペレータ	グローシップ・パートナーズ

<<外資系ベンダ>>

・UiPath	UiPath
・Blue Prism	SS&C Blue Prism
・NICE APAシリーズ	NICE
・Power Automate Desktop	日本マイクロソフト
・Automation 360（Anywhere Enterprise）	オートメーション・エニウェア
・Pega Robotic Automation	Pegasystems
・WorkFusion（RPA Expressを含む）	WorkFusion
・Kofax RPA	Kofax Japan
・Verint RPA	ベリントシステムズジャパン
・AutoMate	Fortra（HelpSystems）
・OpenRPA	OpenIAP

<<その他>>

・その他：

・Webサービス連携ツールの一機能として利用	例）Workatoの「Workato」など
・ERP/基幹系システムの一機能として利用	例）OSK（大塚商会）の「SMILE V」など
・コラボレーションの一機能として利用	例）ネオジャパンの「App Suite」など
・ワークフロー・ビジネスプロセス管理の一機能として利用	例）Nintexの「Nintex Workflow Cloud」
・ペーパレス化のソリューションの一部として利用	
・テレワークのソリューションの一部として利用	
・独自開発システム	

本調査レポートの設問項目（5/7）

F6-1AT.導入済み/導入予定のRPAツール（複数回答可）

設問F6-1A「導入済み/導入予定のRPAツール」の選択肢のうち、回答割合が比較的低いものは「その他の製品/サービス：」に集約し、全体の選択肢数が概ね25件以内となるように要約した派生設問である。（ただし、要約後も<<その他>>に属する「その他の製品/サービス：」以外の選択肢（「Webサービス連携ツールの一機能として利用」など）は必ず含まれる。）

F6-1AS.導入済み/導入予定のRPAツール（複数回答可）

設問F6-1A「導入済み/導入予定のRPAツール」の結果を<<国内ベンダ>>、<<外資系ベンダ>>、<<その他>>の3グループの単位で集約した派生設問である。つまり、選択肢は<<国内ベンダ>>、<<外資系ベンダ>>、<<その他>>の3つとなる。

F6-1B.最も主要な導入済み/導入予定のRPAツール

設問F6-1A「導入済み/導入予定のRPAツール」で選んだ選択肢のうち、最も主要なもの（最も利用頻度が高い、もしくは最も重要度が高い）を1つ選ぶ設問である。選択肢には設問F6-1Aで選択したものが表示される。

F6-1BT.最も主要な導入済み/導入予定のRPAツール

設問F6-1B「最も主要な導入済み/導入予定のRPAツール」の選択肢のうち、回答割合が比較的低いものは「その他の製品/サービス：」に集約して、全体の選択肢数が概ね25件以内となるように要約した派生設問である。（要約後も<<その他>>に属する「その他の製品/サービス：」以外の選択肢（「Webサービス連携ツールの一機能として利用」など）は必ず含まれる。）

F6-1BS.最も主要な導入済み/導入予定のRPAツール

設問F6-1B「最も主要な導入済み/導入予定のRPAツール」の結果を<<国内ベンダ>>、<<外資系ベンダ>>、<<その他>>の3グループの単位で集約した派生設問である。つまり、選択肢は<<国内ベンダ>>、<<外資系ベンダ>>、<<その他>>の3つとなる。

F7-1.最も主要なRPAツールの導入元

ここでの「導入元」とは設問F6-1Bで回答した最も主要なRPAツールをどのような販社/SIerから導入したか？を指す。 選択肢は以下の通り。

・最も主要な委託先/購入先	IT商材全般を最も多く導入している委託先/購入先（プライムの販社/SIer）からの導入
・主要ではない委託先/購入先	プライムではない販社/SIerからの導入
・開発元ベンダからの直接購入	開発元ベンダからの導入（直販の場合）

F8-1.最も主要なRPAツールの導入費用（万円）

設問F6-1Bで回答した最も主要なRPAツールの導入費用を数値で記入する設問である。本設問は設問F2-1「RPAツールの活用状況」において、「導入済み＆拡大」（※1）、「導入済み＆維持」（※2）、「導入済み＆縮小」（※3）、「導入あり＆廃止」（※4）、「導入予定」（※5）のいずれかを選んだ場合のみ回答対象となり、※1～※4を選んだ場合は実際に要した費用、※5の場合は想定される費用を回答する。ハードウェアとOSに関する初期費用（購入費用、初期設定費用など）は除外し、RPAツールの形態に応じて以下の要素を含めた金額を記入する。

パッケージの場合：	パッケージ購入費用、ミドルウェア購入費用、パッケージの初期設定費用、カスタマイズ費用（カスタマイズしている場合）の総額
ASP/SaaSの場合：	サービス初期費用、サービスの初期設定費用、カスタマイズ費用（カスタマイズしている場合）の総額
独自開発の場合：	独自開発費用、ミドルウェア購入費用、独自開発システムの初期設定費用の総額

本調査レポートの設問項目（6/7）

F6-2A.導入済み/導入予定のNLDツール（複数回答可）

本設問は設問F2-2「NLDツールの活用状況」において、「導入済み＆拡大」（※1）、「導入済み＆維持」（※2）、「導入済み＆縮小」（※3）、「導入あり＆廃止」（※4）、「導入予定」（※5）のいずれかを選んだ場合のみ回答対象となる。※1～※4を選んだ場合は実際に導入したNLDツール、※5の場合は導入を予定しているNLDツールを全て選ぶ。選択肢は以下の通り。選択肢に掲載される製品/サービスは過去の調査結果や最新の市場状況を踏まえて選定される。自由回答で多く挙げられたものは選択肢として新たに取り上げ、逆に一定期間以上シェア数値がないものは割愛するという方針で年毎に調整を行っている。

<<超高速開発ツール>>

データ構図や画面レイアウトなどをツール上で設計/指定することで、プログラムを自動生成するもの

・GeneXus	ジェネクサス・ジャパン
・OutSystems	OutSystems
・Magic xpa(dbMagic)	マジックソフトウェア・ジャパン
・Web Performer	キヤノンITソリューションズ
・AppSQUARE	日立ソリューションズ東日本
・楽々Framework3	住友電工情報システム
・Sapiens eMerge	サピエンステクノロジー・ジャパン
・intra-mart Accel Platform（Accel-Mart Quick/Plusを含む）	NTTデータ イントラマート
・HCL Domino Leap（HCL Domino Volt）	HCL Software
・AWS Amplify	Amazon Web Services
・Adalo	Adalo
・Bubble	Bubble
・Click	NoCode Japan

<<PaaSとして提供されているもの>>（PaaSを出自としているもの）

クラウド上に開発環境と実行環境が配備されており、月額/年額のサービスとして提供されているもの

・Lightning Platform(Force.com)	セールスフォース・ドットコム
・kintone	サイボウズ
・Power Apps	日本マイクロソフト
・AppSheet	グーグル

<<カジュアルデータベース>>（超高速開発ツールと比べて、やや簡易なもの）

ExcelやAccessのようにデータ構造を定義し、部品を組み合わせて操作/表示の画面を作成するもの

・Claris FileMaker	Claris（クラリス）
・JUST.DB / UnitBase	ジャストシステム
・Zoho Creator	ゾーホージャパン
・コンテキサー	アプストウェブ
・Forguncy	グレープシティ
・CELF	SCSK

<<グループウェアと関連が深いもの>>（グループウェアから派生した出自をもつもの）

グループウェアベンダによって提供され、独自のアプリケーションを作成できる仕組みを備えたもの

・AppSuite	ネオジャパン
・SmartDB	ドリーム・アーツ
・POWER EGG Webデータベース	ディサークル

<<CRMや基幹系システムと関連が深いもの>>（CRMや基幹系システムから派生した出自をもつもの）

CRMの一環として導入されることが多く、独自のアプリケーションを作成できる仕組みを備えたもの

・SMILE V Custom AP Builder	OSK(大塚商会)
・SMILE V CRM Quick Creator	OSK(大塚商会)
・SPIRAL	スパイラル（パイプドビッツ）

<<iPaaS/データ連携ツール>>

複数のシステムやクラウドサービス間を連携することに重点を置いたもの

・DataSpider Cloud	セゾン情報システムズ（HULFT）
・ASTERIA Warp	アステリア
・Anypoint Platform	MuleSoft
・Workato	Workato
・Informatica Intelligent Cloud Services	インフォマティカ
・Boomi	Boomi
・Power Automate	日本マイクロソフト
・IFTTT	IFTTT
・Zapier	Zapier
・Anyflow	Anyflow
・Claris Connect	Claris（クラリス）

<<その他>>

・その他：

本調査レポートの設問項目（7/7）

F6-2AT.導入済み/導入予定のNLDツール（複数回答可）

設問F6-2A「導入済み/導入予定のNLDツール」の選択肢のうち、回答割合が比較的低いものは「その他の製品/サービス：」に集約し、全体の選択肢数が概ね25件以内となるように要約した派生設問である。

F6-2AS.導入済み/導入予定のNLDツール（複数回答可）

設問F6-2A「導入済み/導入予定のRPAツール」の結果を<<超高速開発ツール>>、<<PaaSとして提供されているもの>>、<<カジュアルデータベース>>、<<グループウェアと関連が深いもの>>、<<CRMや基幹系システムと関連が深いもの>>、<<iPaaS/データ連携ツール>>、<<その他>>の7つの選択肢グループにまとめた派生設問である。つまり、選択肢は上記において<<***>>で列挙した7つとなる。

F6-2B.最も主要な導入済み/導入予定のNLDツール

設問F6-2A「導入済み/導入予定のNLDツール」で選んだ選択肢のうち、最も主要なもの（最も利用頻度が高い、もしくは最も重要度が高い）を1つ選ぶ設問である。選択肢には設問F6-2Aで選択したものが表示される。

F6-2BT.最も主要な導入済み/導入予定のNLDツール

設問F6-2B「最も主要な導入済み/導入予定のNLDツール」の選択肢のうち、回答割合が比較的低いものは「その他の製品/サービス：」に集約して、全体の選択肢数が概ね25件以内となるように要約した派生設問である。

F6-2BS.最も主要な導入済み/導入予定のNLDツール

設問F6-2B「最も主要な導入済み/導入予定のNLDツール」の結果を<<超高速開発ツール>>、<<PaaSとして提供されているもの>>、<<カジュアルデータベース>>、<<グループウェアと関連が深いもの>>、<<CRMや基幹系システムと関連が深いもの>>、<<iPaaS/データ連携ツール>>、<<その他>>の7つの選択肢グループにまとめた派生設問である。つまり、選択肢は上記において<<***>>で列挙した7つとなる。

F7-2.最も主要なNLDツールの導入元

ここでの「導入元」とは設問F6-2Bで回答した最も主要なNLDツールをどのような販社/SIerから導入したか？を指す。 選択肢は以下の通り。

・最も主要な委託先/購入先	IT商材全般を最も多く導入している委託先/購入先（プライムの販社/SIer）からの導入
・主要ではない委託先/購入先	プライムではない販社/SIerからの導入
・開発元ベンダからの直接購入	開発元ベンダからの導入（直販の場合）

F8-2.最も主要なNLDツールの導入費用（万円）

設問F6-2Bで回答した最も主要なNLDツールの導入費用を数値で記入する設問である。本設問は設問F2-2「NLDツールの活用状況」において、「導入済み＆拡大」（※1）、「導入済み＆維持」（※2）、「導入済み＆縮小」（※3）、「導入あり＆廃止」（※4）、「導入予定」（※5）のいずれかを選んだ場合のみ回答対象となり、※1～※4を選んだ場合は実際に要した費用、※5の場合は想定される費用を回答する。ハードウェアとOSに関する初期費用（購入費用、初期設定費用など）は除外し、NLDツールの形態に応じて以下の要素を含めた金額を記入する。

パッケージの場合：	パッケージ購入費用、ミドルウェア購入費用、パッケージの初期設定費用、カスタマイズ費用（カスタマイズしている場合）の総額
ASP/SaaSの場合：	サービス初期費用、サービスの初期設定費用、カスタマイズ費用（カスタマイズしている場合）の総額
独自開発の場合：	独自開発費用、ミドルウェア購入費用、独自開発システムの初期設定費用の総額

本調査レポートの集計データ(1/4)

本調査レポートで用いられている用語の説明やファイルの命名規則は以下の通りである。

【用語の説明】

「表頭」　実際の集計対象となる設問を指す。集計表では列表記に相当し、グラフでは凡例に相当する。

「表側」　表頭となるデータを区切って集計する際の区分に相当する設問を指す。集計表においては行表記に相当し、グラフにおいてはそれぞれの帯に相当する。

【ファイルの命名規則】

本調査レポートの集計データはMicrosoft Excel形式となっており、以下の命名規則に沿って作成されている。

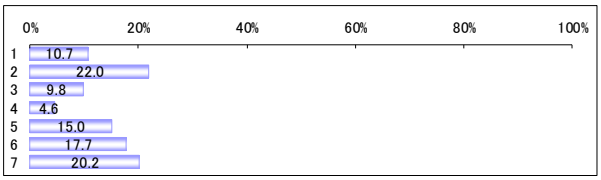
表側を伴わない集計データ:　単純集計データ
命名規則:　【表頭名】単純集計.xlsx

表側を設定しない集計結果は「単純集計データ」と呼ばれ、設問の回答結果を棒グラフでプロットする形式となる。ファイル名は集計対象(表頭)となる設問名の後に「単純集計」というキーワードを付加された書式となる。例えば、本調査レポートの設問には全てFの接頭辞が付加されており、全設問の単純集計データを収録したファイル名は「【F系列】単純集計.xlsx」となる。

単純集計データの例

F2-1.RPAツールの活用状況

		n	%
	全体	1300	100.0
1	導入済み&拡大	139	10.7
2	導入済み&維持	286	22.0
3	導入済み&縮小	127	9.8
4	導入あり&廃止	60	4.6
5	導入予定	195	15.0
6	導入無&予定無	230	17.7
7	判断不可	263	20.2



表側を伴う集計データ:　主要分析軸集計　および　質問間クロス集計データ
命名規則:　【表頭名】(【表側名】表側).xlsx

表側が設置された集計結果は「主要分析軸集計データ」または「質問間クロス集計データ」と呼ばれる。

「主要分析軸集計データ」とは、A1～A7までのサンプル属性区分を表側として集計したデータを指す。例えば、本調査レポートにおける数値回答設問を除いた全ての設問(与えられた選択肢から選ぶ形式の設問)を表頭とし、「A1.年商」を表側として集計した「主要分析軸集計データ」のファイル名は「【F系列】(【A1】表側).xlsx」となる。

一方で、「質問間クロス集計データ」とは、サンプル属性区分以外の何らかの設問を表側として集計したデータを指す。ファイル名は集計対象(表頭)である設問名に表側となっている設問名が続き、「表側」というキーワードが付加された書式となる。例えば、本調査レポートにおける数値回答設問を除く全ての設問を表頭として、設問F2-2「NLDツールの活用状況」を表側として集計した「質問間クロス集計データ」のファイル名は「【F系列】(【F2-2】表側).xlsx」となる。

表側を伴う集計データは1設問につき1シートの形式となっており、表頭となっている設問名が各シートのタブ名に記載されている。ただし、選択肢の数が多い場合は複数シートにデータが分割される。その際はタブ名に[設問名-1]、[設問名-2]といった枝番が付加され、シート内のグラフタイトルには「***(1/2)」、「***(2/2)」といったように分割されたシートの一部であることを示す接尾辞が付加される。

次頁へ続く

本調査レポートの集計データ(2/4)

前頁からの続き

表側を伴う集計データの各シートは以下の4つの要素から構成される。

A [自動生成コメント]

集計データの概要が端的なコメントとして記載されている。ただし、このコメントは自動生成された参考コメントとしての位置付けであるため、設問選択肢の詳しい意味合いなどは加味されていない点に注意する必要がある。

B [設問結果の単純集計結果グラフ]

選択肢の数に応じて縦棒グラフまたは横帯グラフのいずれかによって表側が設定されていない状態の集計結果を端的に示している。

C [表側を伴う設問結果の数表]

表側を設定した状態での集計結果を数表として表示している。数表内には選択肢毎の回答件数と回答割合(パーセント)が記載されている。

D [表側を伴う設問結果のグラフ]

表側を設定した状態での集計結果を積み上げ横棒グラフとして表示している。可視性を考慮して、5%未満の数値についてはグラフ中の数字表記を非表示としている。表頭となる設問が単一回答設問である場合は目盛に値の付いた横軸が表示される。複数回答設問の場合には複数の選択肢を合計した数値には重複が含まれるため、誤った数値の読み取りを避ける目的で横軸の目盛り値を非表示としている。

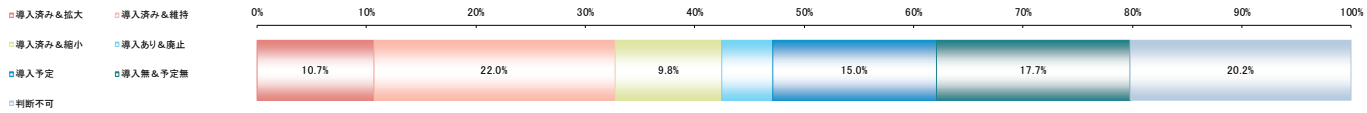
表側を伴う集計データの例

A

F2-1.RPAツールの活用状況

・全体では、「導入済み＆維持」が22.0%で最も高く、次いで「判断不可」が20.2%で続く。
・「A1.年商」では、「5億円未満」で「導入無＆予定無」「判断不可」、「50億円以上～100億円未満」で「導入済み＆維持」が全体と比較して高い。

B

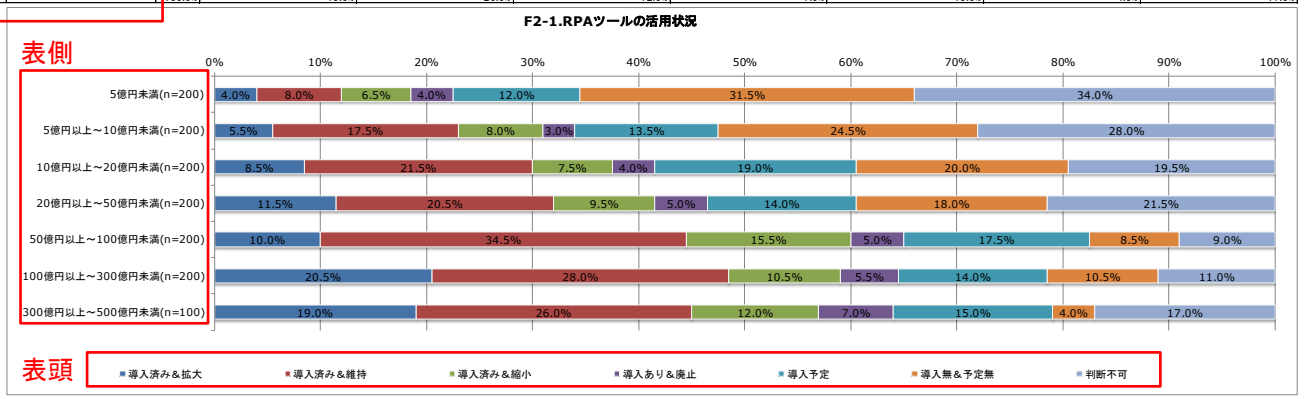


C

表側　表頭

		n	導入済み＆拡大	導入済み＆維持	導入済み＆縮小	導入あり＆廃止	導入予定	導入無＆予定無	判断不可
全体		1300	139	286	127	60	195	230	263
		100.0%	10.7%	22.0%	9.8%	4.6%	15.0%	17.7%	20.2%
A1.年商	5億円未満	200	8	16	13	8	24	63	68
		100.0%	4.0%	8.0%	6.5%	4.0%	12.0%	31.5%	34.0%
	5億円以上～10億円未満	200	11	35	16	6	27	49	56
		100.0%	5.5%	17.5%	8.0%	3.0%	13.5%	24.5%	28.0%
	10億円以上～20億円未満	200	17	43	15	8	38	40	39
		100.0%	8.5%	21.5%	7.5%	4.0%	19.0%	20.0%	19.5%
	20億円以上～50億円未満	200	23	41	19	10	28	36	43
		100.0%	11.5%	20.5%	9.5%	5.0%	14.0%	18.0%	21.5%
	50億円以上～100億円未満	200	20	69	31	10	35	17	18
		100.0%	10.0%	34.5%	15.5%	5.0%	17.5%	8.5%	9.0%
	100億円以上～300億円未満	200	41	56	21	11	28	21	22
		100.0%	20.5%	28.0%	10.5%	5.5%	14.0%	10.5%	11.0%
	300億円以上～500億円未満	100	19	26	12	7	15	4	17
		100.0%	19.0%	26.0%	12.0%	7.0%	15.0%	4.0%	17.0%

D



本調査レポートの集計データ(3/4)

本調査レポートに収録されている集計データは以下の通りである。

単純集計データ:

【F系列】単純集計.xlsx	表側を設定せずに本調査レポートの全ての設問を集計したデータ

主要分析軸集計データ:

【F系列】(【A1】表側).xlsx	年商(A1)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ
【F系列】(【A2】表側).xlsx	職責(A2)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ
【F系列】(【A3】表側).xlsx	従業員数(A3)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ
【F系列】(【A4】表側).xlsx	業種(A4)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ
【F系列】(【A5】表側).xlsx	所在地(A5)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ
【F系列】(【A6】表側).xlsx	IT管理/運用の人員規模(A6)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ
【F系列】(【A7】表側).xlsx	ビジネス拠点の状況(A7)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ
【F系列数値】(【A1】表側).xlsx	年商(A1)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)の平均値を集計したデータ
【F系列数値】(【A2】表側).xlsx	職責(A2)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)の平均値を集計したデータ
【F系列数値】(【A3】表側).xlsx	従業員数(A3)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)の平均値を集計したデータ
【F系列数値】(【A4】表側).xlsx	業種(A4)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)の平均値を集計したデータ
【F系列数値】(【A5】表側).xlsx	所在地(A5)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)の平均値を集計したデータ
【F系列数値】(【A6】表側).xlsx	IT管理/運用の人員規模(A6)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)の平均値を集計したデータ
【F系列数値】(【A7】表側).xlsx	ビジネス拠点の状況(A7)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)の平均値を集計したデータ

質問間クロス集計データ:

【F系列】(【F2-1】表側).xlsx	設問F2-1「RPAツールの活用状況」を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ
【F系列】(【F2-1(要約)】表側).xlsx	設問F2-1「RPAツールの活用状況」を要約した設問を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ
【F系列】(【F2-2】表側).xlsx	設問F2-2「NLDツールの活用状況」を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ
【F系列】(【F2-2(要約)】表側).xlsx	設問F2-2「NLDツールの活用状況」を要約した設問を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ
【F系列】(【F6-1BT】表側).xlsx	設問F6-1BT「最も主要な導入済み/導入予定のRPAツール」を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ
【F系列】(【F6-1BS】表側).xlsx	設問F6-1BS「最も主要な導入済み/導入予定のRPAツール」を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ

次頁へ続く

本調査レポートの集計データ（4/4）

前頁からの続き

質問間クロス集計データ：

【F系列】(【F6-2BT】表側).xlsx	設問F6-2BT「最も主要な導入済み/導入予定のNLDツール」を表側として、数値回答設問（F8-1/F8-2）を除く選択肢設問を集計したデータ
【F系列】(【F6-2BS】表側).xlsx	設問F6-2BS「最も主要な導入済み/導入予定のNLDツール」を表側として、数値回答設問（F8-1/F8-2）を除く選択肢設問を集計したデータ
【F系列】(【F7-1】表側).xlsx	設問F7-1「最も主要なRPAツールの導入元」を表側として、数値回答設問（F8-1/F8-2）を除く選択肢設問を集計したデータ
【F系列】(【F7-2】表側).xlsx	設問F7-2「最も主要なNLDツールの導入元」を表側として、数値回答設問（F8-1/F8-2）を除く選択肢設問を集計したデータ
【F8-1】(【F7-1】表側).xlsx	設問F7-1「最も主要なRPAツールの導入元」を表側として、数値回答設問F8-1「最も主要なRPAツールの導入費用」の平均値を集計したデータ
【F8-2】(【F7-2】表側).xlsx	設問F7-2「最も主要なNLDツールの導入元」を表側として、数値回答設問F8-2「最も主要なNLDツールの導入費用」 の平均値を集計したデータ
【F8-1】(【F6-1BS】表側).xlsx	設問F6-1BS「最も主要な導入済み/導入予定のRPAツール」を表側として、数値回答設問F8-1「最も主要なRPAツールの導入費用」 の平均値を集計したデータ
【F8-2】(【F6-2BS】表側).xlsx	設問F6-2BS「最も主要な導入済み/導入予定のNLDツール」を表側として、数値回答設問F8-2 「最も主要なNLDツールの導入費用」 の平均値を集計したデータ
【F8-1】(【F2-1】表側).xlsx	設問F2-1「RPAツールの活用状況」を表側として、数値回答設問F8-1「最も主要なRPAツールの導入費用」の平均値を集計したデータ
【F8-2】(【F2-2】表側).xlsx	設問F2-2「NLDツールの活用状況」を表側として、数値回答設問F8-2「最も主要なNLDツールの導入費用」の平均値を集計したデータ

分析サマリ掲載データ：

分析サマリ掲載データ.xlsx	本調査レポートの要点と提言を記載した「分析サマリ」（PDF形式）内に掲載されたデータ

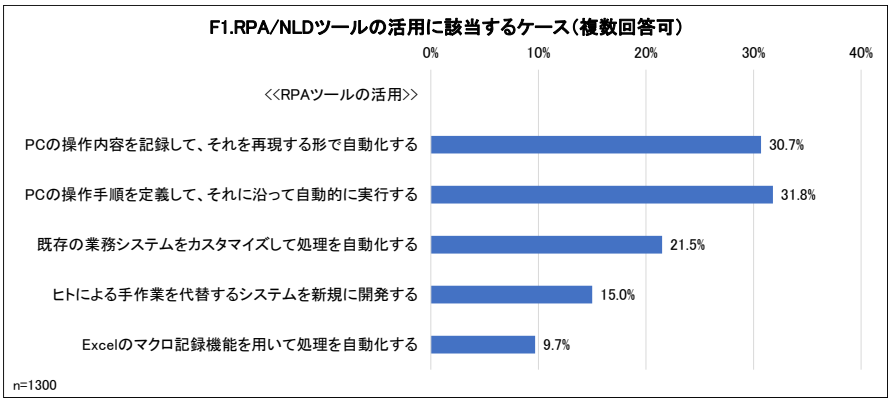
レポート試読版1:「分析サマリ」

本調査レポートの重要ポイントや今後に向けた提言をまとめたものが「分析サマリ」(PDF形式)である。この分析サマリを通読することで、中堅・中小企業におけるRPA/NLDツールの活用状況を把握することができる。(分析サマリの章構成については本ドキュメントの2ページを参照) 以下の試読版では分析サマリの「RPA/NLDツールの認知と導入状況」の冒頭部分を抜粋して掲載している。

第 1 章. RPA/NLD ツールの認知と導入状況

本章ではユーザ企業はどのような場面を RPA/NLD 活用に該当すると考えているのか?(RPA/NLD ツールと従来ツールとの混同はないか?)を確認した上で、RPA/NLD ツールの導入状況を「導入済みで今後も拡大する」や「導入したが廃止した」などの詳細なパターンに分けて集計/分析している。

以下のグラフは設問 F1「RPA/NLD ツールの活用に該当するケース」のうち、RPA ツールの活用に該当する選択肢の回答割合を中堅・中小企業全体で集計したものである。(集計データ¥分析サマリ掲載データ.xlsx 「第 1 章-1」シート)



サンプルのため、ここではグラフのサイズを小さくして掲載している

ユーザ企業に対する Web アンケートにおいて、上記の設問を尋ねる段階では本調査レポートにおける RPA の定義を明示していない。したがって、上記のグラフは何らの定義/説明がない状態における中堅・中小企業の RPA に対する認識を反映した結果と捉えることができる。

RPA が注目を集めるようになってから既に数年が経過した現在、IT 企業としては中堅・中小市場におけるレイトマジョリティ(後期追随者)を対象とした RPA 導入提案を如何に成功させるか?が今後の注力ポイントとなってくる。その際は、「そもそも中堅・中小企業は単なるマクロ利用と RPA ツールの区別が付いているのか?」など、RPA に関する認知状況を確認しておくことが大切だ。

「PC の操作内容を記録して、それを再現する形で自動化する」
「PC の操作手順を定義して、それに沿って自動的に実行する」
の 2 項目の回答割合が 3 割超に達する一方で、
「Excel のマクロ記録機能を用いて処理を自動化する」
は 1 割未満に留まっている。そのため、中堅・中小企業は RPA ツールと単なるマクロ利用を概ね区別できている状況と捉えることができる。

**********以下、省略**********

禁転載/禁抜粋:Copyright©2023 by Nork Research Co.,Ltd. All Rights Reserved.

レポート試読版2:「主要分析軸集計データ」

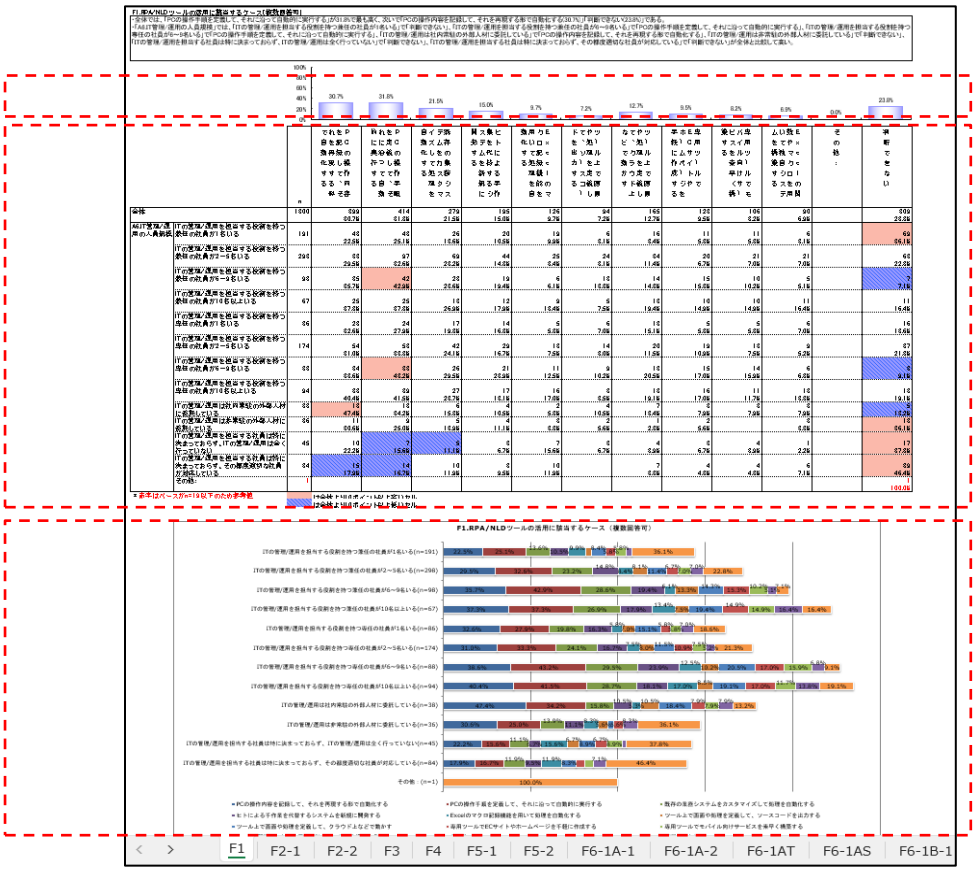
「設問項目」に掲載した設問結果を年商、業種、従業員数、所在地などの基本属性を軸として集計したものが、「主要分析軸集計データ」であり、Microsoft Excel形式で調査レポート内に同梱されている。以下の試読版に掲載したものは「A6. IT管理/運用の人員体制」を集計軸として本調査レポートにおける選択肢設問の結果を集計した結果の一部である。

以下のMicrosoft Excelファイル名は『【F系列】(【A6】表側).xlsx』となっている。【F系列】とは、本調査レポートにおいて数値回答を除いた選択肢設問(与えられた選択肢から選んで回答する形式の設問群)を指す。また、【A6】とは本ドキュメントの1ページに記載されたIT管理/運用の人員体制を示す企業属性であり、以下のような選択肢から構成されている。

- ITの管理/運用を担当する役割を持つ兼任の社員が1名いる
- ITの管理/運用を担当する役割を持つ兼任の社員が2～5名いる
- ITの管理/運用を担当する役割を持つ兼任の社員が6～9名いる
- ITの管理/運用を担当する役割を持つ兼任の社員が10名以上いる
- ITの管理/運用を担当する役割を持つ専任の社員が1名いる
- ITの管理/運用を担当する役割を持つ専任の社員が2～5名いる
- ITの管理/運用を担当する役割を持つ専任の社員が6～9名いる
- ITの管理/運用を担当する役割を持つ専任の社員が10名以上いる
- ITの管理/運用は社内常駐の外部人材に委託している
- ITの管理/運用は非常駐の外部人材に委託している
- ITの管理/運用を担当する社員は特に決まっておらず、ITの管理/運用は全く行っていない
- ITの管理/運用を担当する社員は特に決まっておらず、その都度適切な社員が対応している

したがって『【F系列】(【A6】表側).xlsx』の結果を見ることで、IT管理/運用を担う人材が1名のみの場合(ひとり情シス)、2～5名、6～9名、10名以上の場合や専任/兼任の違いによって、守りのIT対策における現状の課題や今後の方針がどのように異なるか？などを確認できる。
同様に年商別の傾向は『【F系列】(【A1】表側).xlsx』(A1が年商区分を表す)、業種別の傾向は『【F系列】(【A4】表側).xlsx』(A4が業種区分を表す)といった集計データが用意されている。このように、ファイル名を見れば「どの設問を対象として、何を軸として集計したものか？」が把握できる。

主要分析軸集計データにおける設問数(選択肢設問の合計数)は計21設問あり、集計の軸となる属性は「A1.年商」「A2.職責」「A3.従業員数」「A4.業種」「A5所在地」「A6.IT管理/運用の人員規模」「A7.ビジネス拠点の状況」の計7項目となっているため「主要分析軸データ」の集計データ数は21設問×7属性＝147となる。(ただし「年商20億円以上～50億円未満かつ組立製造業」といったように、2つ以上の属性を掛け合わせたものを軸とした集計結果については本レポートの標準には含まれない)



※1

※2

※3

個々のシートは左記のようなレイアウトになっている。

画面上部:※1
軸を設定していない状態の縦帯グラフもしくは横帯グラフ

画面中央:※2
年商や業種といった属性軸を設定して集計した結果の数表データ

画面下部:※3
画面中央の数表データを横帯グラフで視覚化したもの

集計データの種類や命名規則などの詳細は本ドキュメントの10～11ページを参照

禁転載/禁抜粋:Copyright©2023 by Nork Research Co.,Ltd. All Rights Reserved.

レポート試読版3:「質問間クロス集計データ」

「設問項目」に掲載した設問結果を他の設問結果を軸として集計したものが、「質問間クロス集計データ」であり、「主要分析軸集計データ」と同様にMicrosoft Excel形式で同梱されている。

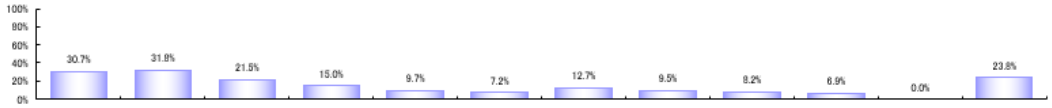
以下の試読版に掲載したものは本調査レポートにおける選択肢設問を設問F6-2BS「最も主要な導入済み/導入予定のNLDツール」を軸(表側)として集計した結果である。このデータを確認することによって、ノーコード/ローコード開発ツールの種別に応じてユーザ企業の課題やニーズがどう異なるか？を把握することができる。

以下のMicrosoft Excelファイル名は『【F系列】(【F6-2BS】表側).xlsx 』となっている。「【F6-2BS】表側」の部分は設問F6-2BS「最も主要な導入済み/導入予定のNLDツール」が集計の軸(表側)となっていることを示している。 ファイル名の先頭にある「【F系列】」の部分は本調査レポートの選択肢設問が集計対象(表頭)となっていることを示している。このようにファイル名を見ることによって、「どの設問を軸としてどの設問の結果を集計したものか？」を把握できる。

個々のシートには画面上部に軸を設定しない状態の縦帯グラフもしくは横帯グラフ、画面中央には特定の設問を軸として設定した集計結果の数表データ、画面下部にはその数表データを横帯グラフで表したものが掲載されるといったレイアウト(前頁の主要分析軸集計データと同様)となっている。

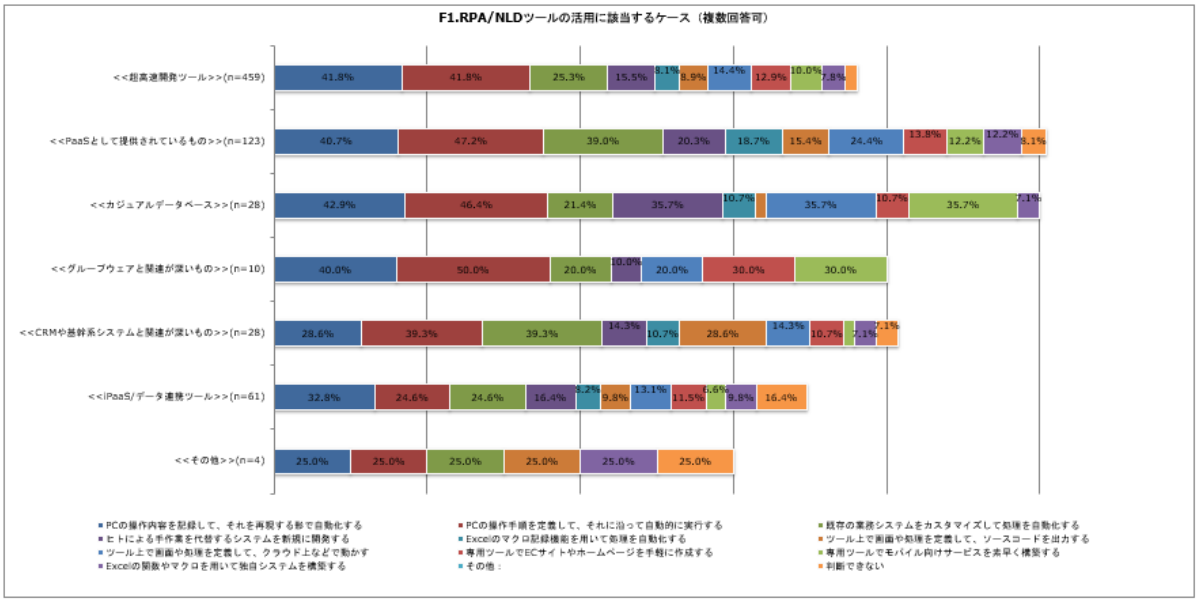
F1.RPA/NLDツールの活用に該当するケース(複数回答可)

・全体では、「PCの操作手順を定義して、それに沿って自動的に実行する」が31.8%で最も高く、次いで「PCの操作内容を記録して、それを再現する形で自動化する(30.7%)」「判断できない(23.8%)」である。
・「F6-2BS」では、「<<超高速開発ツール>>」で「PCの操作内容を記録して、それを再現する形で自動化する」「PCの操作手順を定義して、それに沿って自動的に実行する」、「<<PaaSとして提供されているもの>>」で「既存の業務システムをカスタマイズして処理を自動化する」「PCの操作手順を定義して、それに沿って自動的に実行する」「ツール上で画面や処理を定義して、クラウド上などで動かす」、「<<カジュアルデータベース>>」で「専用ツールでモバイル向けサービスを素早く構築する」「ツール上で画面や処理を定義して、クラウド上などで動かす」「ヒトによる手作業を代替するシステムを新規に開発する」、「<<CRMや基幹系システムと関連が深いもの>>」で「ツール上で画面や処理を定義して、ソースコードを出力する」「既存の業務システムをカスタマイズして処理を自動化する」が全体と比較して高い。



		n	化再記Pす現録Cるすしのるて標豚ーイ作でそ内自れ容動をを	行沿定Pすつ現Cるてしの自て標動ーイ作的そ手にれ現実にを	すしム既るてを存処力の現ス実をタ務自マシ動イス化ステ	るムをヒを代ト新書に規すよにるる関シ手発ス作すテ系	るてロE処記x現録cを操e自動ー動をの化用マすいク	カソ処ツすト現ーるスをルコ定上ー現でドし国をて而出ーや	動ク処ツから現ーすウをルド定上上現でなし国どて而でーや	成ベサ専すトイ用るジトツをやー手ホル経ーでにムE作C	をイ専業ル用早向ツく付ー構サル策ーですビモるスパ	策独やEす自マxるシクcスロeテをー ム用のをい関構て数	その他:	判断でをない
全体		1300	399	414	279	195	128	94	165	123	108	90		309
			30.7%	31.8%	21.5%	15.0%	9.7%	7.2%	12.7%	9.5%	8.2%	6.9%		23.8%
F6-2BS	<<超高速開発ツール>>	459	192	192	116	71	37	41	66	59	46	38		19
			41.8%	41.8%	25.3%	15.5%	8.1%	8.9%	14.4%	12.9%	10.0%	7.8%		4.1%
	<<PaaSとして提供されているもの>>	123	50	58	48	25	23	19	30	17	15	15		10
			40.7%	47.2%	39.0%	20.3%	18.7%	15.4%	24.4%	13.8%	12.2%	12.2%		8.1%
	<<カジュアルデータベース>>	28	12	13	6	10	3	5	10	3	10	2		
			42.9%	46.4%	21.4%	35.7%	10.7%	3.6%	35.7%	10.7%	35.7%	7.1%		
	<<グループウェアと関連が深いもの>>	10	4	5	2	1			2	2	3	3		
			40.0%	50.0%	20.0%	10.0%			20.0%	20.0%	30.0%	30.0%		
	<<CRMや基幹系システムと関連が深いもの>>	28	8	11	11	4	3	8	4	3	1	2		2
			28.6%	39.3%	39.3%	14.3%	10.7%	28.6%	14.3%	10.7%	3.6%	7.1%		7.1%
	<<iPaaS/データ連携ツール>>	61	20	15	15	10	5	8	8	7	4	8		10
			32.8%	24.6%	24.6%	16.4%	8.2%	9.8%	13.1%	11.5%	6.6%	9.8%		16.4%
	<<その他>>	4	1	1	1			1				1		1
			25.0%	25.0%	25.0%			25.0%				25.0%		25.0%

＊斜平はベースが n=19以下のため参考値
は全体より10ポイント以上高いセル
は全体より10ポイント以上低いセル



F1 | F2-1 | F2-2 | F3 | F4 | F5-1 | F5-2 | F6-1A-1 | F6-1A-2 | F6-1AT | F6-1AS | F6-1B-1 | F6-1B-2

禁転載/禁抜粋:Copyright©2023 by Nork Research Co.,Ltd. All Rights Reserved.

レポート試読版4:「公開リリース(サンプル/ダイジェスト)」

前頁までに掲載した紹介資料に加えて、ノークリサーチのホームページ上では各種調査レポートのサンプル/ダイジェストをリリースとして公開している。本調査レポートに関連するリリースは以下の通りである。

中堅・中小向けノーコード/ローコード開発ツール提案の障壁とその打開方法

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023RPA_user_rel1.pdf

＜過剰な期待を抑制し、適材適所のツール活用を進めることが市場拡大に向けた最短経路＞

■「導入済み＆縮小」と「導入あり＆廃止」は「導入予定」を僅かに上回り、市場拡大を抑制
■ツール習得よりも「コーディング無しで何でもできる」という過剰な期待が懸念すべき課題
■「用途に応じた複数ツールの使い分け」と「要件を満たすSaaSはないか?の確認」が大切

中堅・中小市場のレイトマジョリティに向けたRPA導入提案における留意点

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023RPA_user_rel2.pdf

＜RPAはあくまで自動化を実現するための手段の一つ、特定ツールに固執しないスタンスを取るべき＞

■RPAツールとマクロ利用は区別できているが、用語が拡大解釈されないための啓蒙も大切
■導入後に顕在化しやすい課題は「自動化できる業務が限定される」よりも「手作業の残存」
■着実な自動化提案を進めるためには「ノーコード/ローコード開発ツールとの併用」も有効

中堅・中小企業におけるノーコード/ローコード開発ツールの用途と社数シェア

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023RPA_user_rel3.pdf

＜今後の伸びが期待できる場面/用途を把握し、社数シェアで上位に位置するツールを提案することが得策＞

■「クラウドサービス間の連携」は2022～2023年に増加し、今後も伸びる有望な用途の1つ
■「レガシーマイグレーション」は今後は減少してリスクも高い、「Excel代替」は1割強を維持
■「超高速開発ツール」が多くを占めるが、今後は「PaaS形態」(kintone,Power Apps)が増加

中堅・中小企業におけるRPA(自動化)ツールの用途と社数シェア

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023RPA_user_rel4.pdf

＜RPA専用ツールに留まらない社数シェアの視点と有望な用途を見極める判断力が今後の成否を分ける＞

■レイトマジョリティ向けに「書式が定まった紙面の転記/照合」の用途を訴求することが有効
■「ファイル配信」と比べて「メール配信」の用途は有望だが、誤送信などのトラブルに要注意
■独自開発およびERP/基幹系システム、ペーパレス化は自動化の対象だが、競合でもある

ご好評いただいているその他の調査レポート （各冊：180,000円税別）

『2023年版 中堅・中小企業のDXおよびITソリューション選定の実態レポート』

50項目に渡る具体的なDX/ITソリューションの導入状況、ユーザ企業が抱える課題とニーズ、選ぶべき訴求手段を網羅した一冊

【レポートの概要と案内】 https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023IT_user_rep.pdf

【リリース(ダイジェスト)】 中堅・中小市場で選ぶべき顧客接点とは？(Webサイト/SNS/メール/電話/Web会議など)
https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023IT_user_rel1.pdf

中堅・中小企業のIT支出を左右する経常利益の増減見通しとその要因分析
https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023IT_user_rel2.pdf

12分野、50項目に渡るDX/ITソリューションの活用実態における変化
https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023IT_user_rel3.pdf

中堅・中小市場で留意すべきユーザ企業とIT企業の「すれ違い」ポイント
https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023IT_user_rel4.pdf

年商別/業種別のIT支出増減予測およびIT支出を増やす商材と減らす商材
https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023IT_user_rel5.pdf

『2023年版 中堅・中小企業におけるネットワーク環境の実態と展望レポート』

今後不可欠となるネットワーク環境とセキュリティ対策を同時に考慮したITインフラ整備の提案ポイントを分析/提言

【レポートの概要と案内】 https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023NW_user_rep.pdf

【リリース(ダイジェスト)】 セキュリティ対策を起点とした中堅・中小向けネットワーク製品/サービスの訴求
https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023NW_user_rel1.pdf

IT企業が見落としやすい中堅・中小ネットワーク環境の意外な課題/ニーズ
https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023NW_user_rel2.pdf

中堅・中小企業におけるネットワーク製品/サービスの市場規模と導入時の基本方針
https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023NW_user_rel3.pdf

『2023年版 中堅・中小企業のITアプリケーション利用実態と評価レポート』

10分野の導入済み/導入予定の社数シェアとユーザ評価に加えて、法制度対応やデータ分析/生成AIの動向を網羅

【レポートの概要と案内】 https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023itapp_rep.pdf

【リリース(ダイジェスト)】

データ分析や生成AI	https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023itapp_ex2_rel.pdf
インボイス/電帳法	https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023itapp_ex1_rel.pdf
ERP	https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023itapp_erp_rel.pdf
生産管理	https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023itapp_ppc_rel.pdf
会計管理	https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023itapp_acc_rel.pdf
販売・仕入・在庫管理	https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023itapp_sbc_rel.pdf
給与・人事・勤怠・就業管理	https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023itapp_hrw_rel.pdf
ワークフロー・ビジネスプロセス管理	https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023itapp_wf_rel.pdf
コラボレーション（グループウェア/ビジネスチャット/Web会議）	https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023itapp_gw_rel.pdf
CRM	https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023itapp_crm_rel.pdf
BI	https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023itapp_bi_rel.pdf
文書管理・オンラインストレージサービス	https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023itapp_dm_rel.pdf

本データの無断引用・転載を禁じます。引用・転載をご希望の場合は下記をご参照の上、担当窓口にお問い合わせください。
引用・転載のポリシー： http://www.norkresearch.co.jp/policy/index.html

本ドキュメントに関するお問い合わせ

NORK RESEARCH

株式会社 ノークリサーチ　　担当：岩上 由高
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-13-10　武蔵野ビル5階23号室
TEL 03-5361-7880 FAX 03-5361-7881
Mail: inform@norkresearch.co.jp
Web: www.norkresearch.co.jp